

第6回琴電連立検討委員会 議事録

1. 会議の日時及び場所

- (1) 会議名 第6回琴電連立検討委員会
- (2) 日 時 令和5年3月27日(月) 午前10時30分から午前10時55分
- (3) 場 所 香川県庁 本館21階 特別会議室

2. 出席委員の氏名

中村 英夫、紀伊 雅敦、柏原 亮、植田 俊也、渡邊 慶、森本 英二、
板橋 孝則、中村 弘孝、板東 和彦、安西 慎

以上 10名

3. 議事

議事(1) パブリック・コメントの実施結果の評価

議事(2) 琴電連立検討委員会の結論

議事(1)、(2)について、**資料2**第6回琴電連立検討委員会説明資料により、事務局から説明した後、質疑応答に入った。

【柏原委員】

第6回の検討委員会ということで、事務局をはじめ、関係者の皆様の御尽力に敬意を表します。お疲れ様でした。一方で、本委員会は3年間を費やしておりまして、論点は明確化してきたものの、まちづくりの遅れや交通対策について官民一体となって取り戻していく必要があるのかなと思っており、新年度の県、市、それから民間の動きには期待をしているところです。

【中村委員長】

ありがとうございます。何か事務局からございますか。

【事務局】

先ほど委員がおっしゃったとおり、令和5年度からの変更に向けた手続き等々、国、高松市並びに交通事業者と連携し進めてまいりたいと考えております。

【中村委員長】

他にございますか。

【紀伊委員】

3年間にわたり審議してまいりまして、結論に至ったということで、大変お疲れ様でした。

これまで関わってきた感想からしますと、今回の結論としてはこれでいいと思うのですが、廃止しても支障がないというよりは、廃止するべきであるというようなことが、この議論の印象であり、また本町踏切などの課題に対しても、連携して取り組んで欲しいというよりは、連携して取り組むべきであるというような議論がな

されていたのかなと思います。それと比較するとこの文言が大分やわらかい書きぶりになっているという印象があるのですが、何か理由があれば教えて頂ければと思います。

【中村委員長】

事務局いかがでしょうか。

【事務局】

本委員会で御議論頂いた内容については、委員がおっしゃったとおりと考えております。

結論（案）としてとりまとめるに当たりましては、県から委員会を設置してお願いしている中で、少しやわらかい表現を使わせて頂いておりますが、思いとしてはおっしゃるとおりであり、それに向けて今後進めていくということでは変わらないと思っております。

【中村委員長】

この結論は、委員会から県や知事に紙で提出するようになるのですか。

【事務局】

本委員会は、文書で知事に対して、提言して頂くことは考えておりません。

【中村委員長】

それでは本日の資料をもって、案という形で議論させて頂き、どのような形で最後まとまるかが、委員会としての結論になるわけですね。

他にいかがでしょうか。

特にないようでしたら、私からも一言だけ申し上げさせて頂ければと思います。

琴電連立検討委員会では、事業中止となっております琴電連続立体交差事業の都市計画のあり方について、存廃も視野に検討するというを目的に設置をされました。

先ほど説明がありましたように、交通対策、まちづくりの姿、住民との合意形成の3つの論点について、令和2年度から3年間、検討してきたところでございます。この委員会の中では、交通対策としては、本町踏切を高架道路でといった代替案につきましても、検討、議論させて頂きましたし、また、この連立廃止後のまちづくりの姿といったことにつきましても、高松市の考え、取り組み等々について話を伺ってまいりました。

結論として、先ほどありましたように、この点については、都市計画を廃止しても支障がない、少し言い方を変えると、廃止すべきであるといったような結論に本日至ったのかなというふうに考えております。

今後、県、高松市と、地域の事業者さん、民間の方々も含めて、官民連携しながら、まちづくりをしっかりと進めて頂きたいと思っております。また都市計画については、本町踏切の代替案の進み具合なども関連してくるのかもしれないけれども、この連続立体交差事業、また関連する都市計画につきましても、変更手続きを進めて頂き

まして、よりよいまちづくりに官民が連携して取り組んで頂くことを期待するものでございます。

その他よろしいでしょうか。

そうしましたら、先ほどの案をもちまして、本日の第6回検討委員会の結論とさせていただきます。

本日本日予定しておりました議事はすべてを終了いたしましたので、以上をもちまして、琴電連立検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

以上